

(様式2)

校 種	① ・ 中 どちらかに○	学校番 号	15	学校名	宇都宮市立泉が丘小学校
-----	-----------------	----------	----	-----	-------------

令和6年度 学習指導に関する取組

1 学習指導上の主な実態

(1) 国・県・市の学力調査などから

- ・国語は、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」「読むこと」の領域で市の平均正答率を上回る結果だった。しかし、「書くこと」の領域では昨年度の課題と同様に条件に従って文章を書く設問に関しては市の平均を下回った。特に段落に分けて記述する設問で課題が見られる。また、無解答率が高いため、設問の条件をよく理解できなかったり書くことへの抵抗感を感じたりしている児童が多いことがうかがえる。つなぎ言葉や段落構成の使い方を指導し、自分の考えを言葉で表現する機会を増やすことで書くことへの慣れと書く力を育成したい。更に、根拠を明確にして自分の考えを表現する言語活動の充実に努め、他者の考えと比較して自分の考えを深められるよう指導の改善を図りたい。
- ・社会は、どの領域、観点においても市の平均正答率を上回る結果を得た。しかし、「国土の自然環境などの様子」の領域では、正答率が昨年度より下回っている。授業等で出てきた国や海洋についてその都度調べたり、ニュースなどで話題の国々を取り上げたりして、その位置を理解させるとともに、日本との関係にも目を向けさせていく。また、都道府県や日本の主な地形についてデジタル教科書や一人一台端末などを活用して確認させ、学習内容の定着を図りたい。
- ・算数は、全ての領域で市の平均正答率を上回る結果であった。基礎・基本の習得に取り組んできた結果であると考えられる。しかし、「図形」の領域では、作図の説明や面積の単位などを考える設問で市の平均正答率を下回った。授業において日常生活での場面を取り上げ、図から必要な情報に着目し、比較して捉える学習を多く取り入れ、自分で考え、根拠をもって説明したり考えを伝え合ったりする活動の充実に図っていきたい。また、身近なものの面積を調べる体験的・調査的な活動を取り入れ、面積を構成する辺の長さや単位に目を向け、その面積を体感させるような授業づくりに努める。
- ・理科は、どの領域においても市の平均正答率を上回った。習得した基礎知識を応用できるよう、発展問題に取り組んだり、実験結果などから考えを説明する活動を通して知識・理解を深めたりするなど、授業で学んだことを実際の生活に生かしている事象について発展的に考える機会を設け、日常生活と理科の学びを結びつける指導の充実に図っていく。

(2) 国・県・市の児童生徒質問紙・学校質問紙などから

- ・「勉強が好きですか。」では、ほとんどの学年が市の肯定割合を上回ったが、「学習に進んで取り組んでいますか。」では、ほとんどの学年が市の肯定割合を下回った。児童の学ぶ意欲を高め、目標を達成できた充実感や学ぶことの楽しさを味わえるような学習活動や興味・関心を

- もって取り組める学習課題の設定等、指導の充実を図り学びに向かう力を育んでいきたい。
- ・「授業で習ったことをその日のうちに復習している」「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」では、市の肯定割合と同等かやや下回る結果となり、個人差が見られる。発達段階に応じた家庭での学習時間の取り方や内容、方法について提案をし、保護者と協力しながら家庭学習の定着を図りたい。
 - ・「学習して、いろいろなことが分かったり、できるようになったりすることはうれしい。」では、どの学年も肯定割合が9割以上であった。昨年度の重点目標であった、授業の目標、学習課題、学習計画を基にした学習の見通しから、本時で行うこと（めあて）のはっきりとした理解を促す授業づくりを実施した成果が表れている。
- (3) 授業等への取組状況から
- ・学習の準備や始業前の着席など、本校児童は落ち着いて学習に臨むことができている。概ね望ましい基本的な学習習慣が身に付いているといえる。
 - ・学習の基礎・基本となる漢字の読み書きや計算等は、繰り返し取り組むことで習熟を図ることができている。しかし、学力の二極化も見られるため、細やかな実態把握と底上げが必要である。

2 学習指導

令和6年度の学習指導上の重点目標

相手意識をもち 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成
— 英語に慣れ親しみ、伝え合う楽しさを実感できる外国語活動・外国語科を目指して —

3 今年度の取組（「学校教育スタンダード」に関する取組は文頭に★、「令和6年度指導の重点」に関する取組は文頭に□、授業における取組のうち重点は文頭に○）

ア 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

① 基礎的・基本的な知識・技能の習得

- ★□○児童の学習に係る課題とその要因把握(学力調査結果の分析)の上で、実行性の高い取組を検討し全校体制で同じ方向性に基づいた学習指導を推進する。
- ★□○授業の目標、学習課題、学習計画を基にした学習の見通しから、本時で行うこと（めあて）のはっきりとした理解を促す。
- ★□○児童が各教科の「見方・考え方」を働かせてじっくり課題に取り組めるよう、的確な見取りと適切な指導・支援を行う。
- 学びに向かう力を育むために、実社会や実生活に関連した課題を取り上げるなど、児童が興味・関心をもって取り組める課題の設定や学習内容の明確化を図る。
 - ・姿勢、返事等の基本的な学習態度指導を徹底する。「学習のきまり」の活用、系統的実践
 - ・朝の学習の指導の充実を図る。

② 思考力・判断力・表現力等の育成

- ★□○思考力・判断力・表現力育成につながる「自分の考えを書く活動」の習慣化やそれを基に、「聞く・話す」など言語に係る基本的な能力・技能を身に付けさせる「説明」「話し合い」活動を充実させる。

□○物事の中から問題を見いだし、解決方法の見通しをもちながら、筋道立てて考え問題を解決していく過程を重視する。

○記述を基に文章の構成を捉えたり、文章を読んで理解したことを基に自分の考えを深めたりする学習の充実を図る。

- ・自分の考えの形成を目的とした読書活動を推進する。(語彙力の強化)
- ・自分の考えや思いをペアやグループ、学級全体の前で伝えることができる環境づくりを工夫する。

③ まとめの学習の充実と家庭学習の習慣化

□○本時の目標や評価規準に基づいたすっきり簡潔なまとめを実施する。

★□○児童の言葉で表現し、学んだことを実践できる振り返りの充実と、学習意欲を育成するための振り返りに対する具体的な言葉かけ(称賛・価値付け)を行う。

□○単元や学期末ごとの復習する機会や学年末にまとめの学習をする機会を設定し、基礎・基本を確実に習得させる。

□○発達段階に応じた宿題や家庭学習の内容や分量、実施方法などを検討・提示し、指導する。「家庭学習の手引き」の活用と、長期休業や学期末などを活用した児童自ら計画・実行できるような家庭学習方法の提示)

④ 専門性の高い授業展開

○学習指導要領の趣旨を具現化した授業実践に向けた、日々の教材研究の充実を図る。

- ・高学年での教科担任制を積極的に推進する。

イ 個別最適な学びと協働的な学びの融合を図った授業の推進

★□○多様な人々と互いのよさを生かしながら、協働して課題に取り組む態度の育成を目指す児童の学び合える活動の工夫と、教師のコーディネート力の向上を図る。

□○個に応じた指導の充実(少人数指導、習熟度指導、TT方式による授業)を図る。

- ・児童の考えのよさを認め、ほめるとともに、困難な課題を粘り強くやり抜く経験を基に主体的に学習に取り組む態度を育成する。(自分の伸びや変化を自覚できる授業の開発と評価の工夫)

★□○タブレット等のICTを活用した学習活動や外国語教育の充実を図り、表現する力を育成する。(校内研修の充実)

○A I型ドリル等を計画的に活用し、基礎基本の確実な習得を図る。また、協働学習ツールを積極的に学習活動に取り入れ、教科の学びを深める。